明治国際医療大学誌　6 号：63-72，2012
© 明治国際医療大学

報　告

平成 22 年度台湾研修報告

山田　晧子，小山　敦代，矢野　惠子，田口　豊恵，永島すえみ，
清野たか枝，青田　正子，松川　泰子，中村真悠子

明治国際医療大学看護学部

要　旨　2010（平成 22）年 12 月 21 日～ 24 日，看護学部教員 9 名が，台湾台中市の中國醫藥大學，中國醫藥大學博物館，中國醫藥大學附属病院，藥園，及び中醫鍼灸治療科，漢方藥局等を訪問，主に看護師と看護教員らと学術交流した．桃園県では林口長庚記念醫院を訪問，看護部と意見交換を実施し院内見学を加え友好を深めた．さらに台北市國立陽明大學看護学部との学術交流，施設見学，研究・教育について意見交換を行った．

今回の研修成果は以下の 4 項目にまとめられる．1）台湾と本学教員の学術交流，特に東洋医学に関する教育・研究に関して両大学看護学部看護教員の間で意見交換ができた．2）教員の研究交換，研究のための長期滞在の可能性を話し合った．3）本学の国際交流事業への講師派遣協力について具体的に検討できた．4）外来で，鍼灸治療に携わる看護師の存在を知れた（台湾では，看護師資格のほかに 9 単位の鍼灸の専門科目を取得することで鍼灸施療の場面に携わることができる）．今後の課題として，教員がいつでも海外の大学との交流や研修に出かけられる体制づくり，特に若い教員や学生が東洋医学や補完代替医療に触れる海外研修を，具体的に構築することの重要性が示唆されたので報告する．

Key words　台湾 Taiwan，研修 study tour，学術交流 scholastic information exchange，看護教育 nursing education

Received October 31, 2011; Accepted January 25, 2012

I.　はじめに

本学看護学部は，平成 18 年度に開設され，平成 22 年 3 月に初めての卒業生を送り出した．平成 22 年度は，学部のさらなる発展のために国際交流の道を模索する課題に取り組むことにした．

教員の教育・研究活動を広げ，学生の国際経験や文化交流体験を増やし，海外の看護系大学とつながりを持ち，看護学部が進めている補完代替療法を看護教育に組み込む基礎を固めることである．そこで，各方面から情報を集めた中で，台湾出身の中山登稔教授に，看護学部を持つ大学の紹介をお願いした．早速に台湾の中國醫藥大學護理學系（看護学科）の黄宣宜主任の快諾を得た．さらに長庚記念醫院の黄澤宏医師（看護師の資格も合わせ持つ）に紹介をいただき，快諾を得てこの研修が実現した．計画の最終段階に至って，東京医科歯科大学大学院の佐々木明子教授からの紹介で，國立陽明大學（学部長施冨金教授）の訪問も追加された．

今回の主な研修目的は，台湾の看護系大学看護学部との教育・研究活動における学術交流と情報交換であった．訪問先からはロゴ入りの記念品をいただくのが通例であることから，本学からは「明治国際医療大学」と本大学の名前入りリボンを結んだ「手作り縫いぐるみのうさぎ（干支）」を，親善大使としてプレゼントし訪問の記念品とした．今回の経験を生かし，さらに海外と本学看護学部との学術交流の発展課題を明らかにするため，ここに研修の概要と成果を報告する．

*連絡先：〒 629-0392　京都府南丹市日吉町
明治国際医療大学看護学部
E-mail: kyamada@meiji-u.ac.jp

表 1　研修日程表（全体）

月日	地名	時刻	日程
12/21（火）	関西空港発	11:20	空路台湾へ
	台北着	13:10	台北到着後，専用車で桃園駅へ
	桃園駅発	午後	台湾新幹線で台中入り
	台中駅	午後	台中着後，台中市内視察（宝覚寺等）　〈台中泊〉
12/22（水）	台中	8:30	中國醫藥大學にて終日研修
			午前：中國醫藥大學看護学部との交流
			中國醫藥大學立夫博物館見学・研修
			午後：中國醫藥大學附属病院中醫部門・藥園見学・研修
			中國醫藥大學附属病院看護部との交流
		17:00	〈台中泊〉
12/23（木）	台中	7:30~8:30	中國醫藥大學にて中山登稔教授特別講義に出席
	桃園県	11:00~12:30	長庚記念醫院桃園分院との交流と研修
	台北	14:00 ～	午後：台北市内視察（龍山寺，中正記念堂，忠烈祠など）〈台北泊〉
12/24（金）	台北	9:00~10:30	國立陽明大學看護学部と学術交流
		11:30	國立故宮博物院見学
	台北発	16:05	中正国際空港より帰路へ
	関西空港着	19:40	研修終了

II.　方法

1.　研修計画

1）目　的：台湾の看護系大学看護学部との学術交流，並びに今後の学生間交流についての情報収集，東洋医学施療の実際から，補完代替療法の研究・教育への知見を得ること．

2）期　間：2010 年 12 月 21 日（火）～ 12 月 24 日（金）3 泊 4 日

3）主な訪問先：

（1）中國醫藥大學　護理學系
台中市北區學士路 91
http://www2.cmu.edu.tw/~cmcnur

（2）長庚記念醫院　桃園分院
桃園縣龜山鄉舊路村頂湖路 123 號
http://www.cgmh.org.tw

（3）國立陽明大學　看護学部
台北市北投區立農街 2 段 155 號
http://son-e.web.ym.edu.tw/front/bin/home.phtml

4）参加者：明治国際医療大学　看護学部教員
山田晧子・小山敦代・矢野惠子・田口豊恵・永島すえみ・清野たか枝・青田正子・松川泰子・中村真悠子

5）コーディネーター兼通訳：
医学教育研究センター生理学教室
中山登稔教授，本学中国語非常勤中山肯英講師

2.　研修日程

研修日程の全体を表で示し（表 1），研修概要の代表的なものを中國醫藥大學研修・視察スケジュールとして紹介する（表 2）．

III.　結果

1.　中國醫藥大學護理學系
Department of Nursing China Medical University

1）大学・看護学科の概要

Xuan-Yi Huang 教授より，中國醫藥大學看護学科について説明を受けた．中國醫藥大學は，台湾初の東西医学を教える大学として設立され，医学部，薬学部，公衆衛生学部，生命科学部，中国医学部と健康介護学部の 6 学部および総合教育センターからなる．校訓は仁慎勤廉，教学理念は Competence（能力化），Compassion（人性化），Context（情境化），Constructivism（整合化）の『4C』である．

看護学科は，健康介護学部（College of Health Care）の 8 学科（他に栄養学科，理学療法学科，放射線学科，生物医学科，スポーツ医学科，口腔衛生

The Bulletin of Meiji University of Integrative Medicine

表 2　中國醫藥大學　研修・視察スケジュール

Meiji University of Integrative Medicine Visiting Schedule　2010.12.22		
Time	**Title**	**Host Unit**
8:30	Welcome (Lobby of Lifu Teaching Building) 歓迎（立夫教學大樓ロビー）	Nursing Department, CMU （看護学部）
8:30–9:00	Greeting (Getting to Know Each Other) 出迎えの挨拶（お互いの紹介）	Nursing Department, CMU （看護学部）
9:00–10:20	・China Medical University & Nursing Department Introduction (40min) 中國醫藥大學及び看護学部の概略紹介（40 分） ・Meiji University of Integrative Medicine Introduction (20min) 明治国際医療大学の紹介（20 分） ・Discussion & Conclusion (20min) 討議 & 結び	Nursing Department, CMU （看護学部）
10:20–11:00	Visiting CMU Demonstrating Ward & Teaching Environment デモンストレーション棟及び教育環境の見学	Nursing Department, CMU （看護学部）
11:00–12:00	Visiting Lifu Museum of Chinese Medicine 中國醫療に関する立夫博物館の見学	Nursing Department, CMU （看護学部）
12:00–13:00	Lunch (Conference Room of Nursing Department, CMU) 昼食（看護学部会議室）	Nursing Department, CMU （看護学部）
13:00–16:30	Visiting Chinese Traumatology and Acupuncture Department of China Medical University Hospital 中國醫藥大學附属病院の中國外傷学及び鍼灸学部の見学	China Medical University Hospital 中國醫藥大學附属病院

学科，呼吸療法学科）の一つで，1966 年 3 年課程を創設，1975 年に 4 年制となり，1989 年より男女共学になった．1990 年に 2 年制の看護管理コース，2001 年に修士課程，2002 年に博士課程（医学研究科内）が開設された．特筆すべきこととして修士課程には，成人看護学，母子看護学，地域保健看護学，精神看護学のほかに中医看護学が開講されていた．

教育理念は『3H』Harmony（身体，精神および魂の調和），Humanism（共感性と良いコミュニケーションを伴う他者の価値観・権利の尊重およびニーズの充足），Holism（全人的，統合的な人間理解）である．

現在の学生数は，学部生 263 名，2 年制看護管理コース 113 名，修士課程 45 名，博士課程 1 名が在籍していた．教員数は，教授 2（1）名，准教授 8（1）名，助教授 5（1）名，講師 15（11）名，プロジェクトティーチャー 5（0）名の計 38 名で，（　）内の 14 名は非常勤であった．卒業単位は 128 単位で，看護師資格取得必要単位は内 72 単位．国家試験合格率は台湾全体の平均が 35 ～ 44％であり，この大学は 91 ～ 98％と高い値であった．看護学部の紹介は，VTR にて視聴した．訪問スケジュールは，表 2. 中國醫藥大學研修･視察スケジュールの通りである．訪問の最初に建物の正面玄関で，歓迎として学生が美しいチャイナドレスを着用して，待機していた（図 1）．

教育施設の様子は，教員研究室の廊下の壁には，看護学科をイメージするユリの花，各講座の紹介，子どもの診察場面，妊婦の腹部等がリアルに描かれており，各講座の特徴を絵で表現し視覚にも訴えていた．実習室では，TA（ティーチングアシスタント）が下級生を指導中であった．統合医療と掲げるだけ

図 1

The Bulletin of Meiji University of Integrative Medicine

図 2

あって実習室の隅には東洋医学関係の用具や，経絡とツボのモデル人形が展示されており，看護学部生は，重要なツボ 10 か所※は必ず覚えることになっていた（図 2）.

※合谷，三陰交，支溝，列欠，足三里，内関，委中，公孫，陽陵泉，阿是穴（中山教授より）

2）中國醫藥大學立夫中醫藥展示館

東洋医学に関する様々な物品が，歴史的背景の解説とともに展示されており，日本と中国の医療の歴史が確かにつながっていることは興味深かった．時間経過に沿った大学グッズの展示等もあり，交流もあらゆる場で様々な事や物をとおして計画的に PR されている様子がうかがえた．日本人の見学者も多いのであろうイヤホンによる日本語ガイドも用意されていた.

3）明治国際医療大学看護学部紹介

中國醫藥大學の教員に対し，日本の京都，本学が位置する日吉町など地域の特徴を紹介した．さらに日本の看護教育の歴史的流れや教育制度の複雑な仕組み，大学概要，看護学部概要，看護教育カリキュラム等について青田助教，松川助手，中村助手がパワーポイントを用いて英語で紹介した.

4）中國醫藥大學と本学教員との意見交換

24 名の教員が参加し交流した．台湾の教員の中にはアロマセラピストの有資格者や東洋医学博士号の取得者が複数名いた．学生は中医医師から鍼灸看護の授業を受けており，ツボへの指圧は看護師が教えていた．全ての教員が東洋医学のトレーニングを受けており，生命倫理科学は，外部へも公開していた.

図 3

台湾では，保健医療の中には東洋医学的な内容が含まれると認識されており，また，東洋医学的看護は，アセスメントより技術トレーニングの方が重要視されていた．男子学生の割合は，全体の 1/4 ～ 1/5 である．以前は 1/2 を超えたこともあったが，産科実習の関係で制限しているとのこと．本学と同じ悩みを持っていた．教員らはそのほとんどが台湾以外の国（アメリカ，オーストラリアなど）で学位（修士，博士）を取得しており，よりグローバルな視野と学術的にも広い視点を持っていることがうかがえた（図 3）.

5）医療や看護・保健・福祉について

台湾の少子高齢化の現状は，台湾行政院主計処の発表によると 2005 年の高齢化率が 9.7%であったのが（2011 年には 13 ～ 14%），2050 年には 36.7%に達すると予測されている．これは日本を上回る高齢化の進展であり，2013 年には日本を手本にした介護保険制度がスタートする．この急速な高齢化に拍車をかけている要因の一つには，日本と同様に出生率の低迷がある．台湾における直近の合計特殊出生率（人口統計上の指標で，一人の 女性が一生に産む子どもの平均数を示す）は, 0.9%で, 日本の 1.37%（総務省統計局，2008 年）を下回る数字である．出生率の低下には，女性の社会進出が背景にある．台湾の女性が子どもを産まない理由には，子どもの養育にお金がかかることによって自分の生活レベルを落としたくないという心理が働き，少子高齢化社会において中・長期的に見てどのように人々の健康の維持・増進をはかるべきか，日本と台湾には共通する

課題も多く，今後両大学の学術的交流が期待される．

2. 中國醫藥大學附属病院
China Medical University Hospital

1）病院概要

中國醫藥大學附属病院は，中国医学と西洋医学の融合を目的にした台湾における主要な病院として1980 年に設立され，30 年間で，台中市 450 万人を対象にしたトップグレードにランクされる医療センターに発展した．大学近隣の広範囲な敷地に救急センター，がんセンターほか多数の施設を備え，その規模は，約 2,000 床を有し，スタッフの数は 3,600 人，1 カ月の外来患者総数 13,000 人，救急患者 9,000 人，1 カ月の入院患者 4,500 人，平均在院日数は 8.3 日である．手術においては，臓器移殖手術，心臓血管外科等 1 カ月の手術件数は 3,000 件に及ぶ．中医については，専門の鍼灸治療科，漢方薬局を有しており，西洋医学と中医の両方の治療が可能である．西洋医学を背景にした最先端医療と，鍼灸・漢方という中国独自の医療が融合し，台中の人々に提供されている．

2）救急センター

センターは 12 階建ての大規模施設で，主として取り扱うのは救急医療・外科治療（手術）・感染症治療である．また，病院が繁華街に立地していることから屋上にヘリポートを備え，遠隔地からの患者を受け入れている．感染症対応では，2002 年から 2003 年に中国本土から発生し世界的に感染拡大が問題となった新型肺炎 SARS（重症急性呼吸器症候群）流行の際には，積極的かつ適切な対応で貢献した実績を持っている．治療部門は全部で 11 部門あった．

3）大学附属病院護理部（看護部）

許玲女護理部主任（看護部長）他，看護部幹部 4 名により中國醫藥大學附属病院全体を DVD にて概略が紹介された．看護部門は 55 のユニットに分かれており，看護職員数は約 1,400 名である．看護部の業務と課題について，口頭で紹介された内容を要約して以下に述べる．（1）ヘリポートは，センターと離れている地域や離島等から救急患者を搬送する際，災害時に医薬品などを提供する際に使用している．（2）救急車の整備として，救急車のレベルには 3 段階あり，AED や呼吸補助など高度な装備をそろえている．（3）看護師の卒後教育システムとしては，台湾の看護協会で定められているものに従って実施し，1 年目，2 年目と継続して実施している．（4）看護師の充足度と離職の状況は，台湾の大規模病院では常に看護師不足であり，離職者は約 10%．当センターでは 140 人の補充が必要であり，毎年 200 人程度採用している．新卒の離職者は就職後 3 カ月以内が多く，臨床現場の厳しさにショックを受けるものと考えている．（5）男性看護師は，20 ～ 30 人就業し，主に精神科病棟勤務である．（6）看護師の平均年齢は 27 歳で，多くは勤務後 8 年程度で結婚退職である．その理由は，3 交替勤務が原因と考えられる．（7）看護部長は，新人看護師に，センターのミッションである「教育」「研究」「サービス」の重要性を認識して欲しいと望んでいる．

話の端々で看護部長はスタッフ教育に熱心で，管理者としてはすこぶる辣腕であることがうかがえた．

3. 中國醫藥大學附設醫院中醫鍼灸科
Chinese Acupuncture, China Medical University Hospital

1）中醫鍼灸科概要

施設は 3 階建で外来部門のみである．鍼治療は，主に内科系患者，精神科系患者，整形外科系患者（骨折や捻挫等）が対象で，1 カ月の患者数は約 4,500 人である．スタッフは 8 人の中医医師と 4 人の看護師の合計 12 人．鍼はディスポーザブルを使用し，太さは日本が 0.2 ミリに対して 0.3 ミリとやや太い．治療手技は，一人の患者に対して 3 ～ 5 分で鍼を挿入し，20 分間置鍼し，抜鍼する方法である．

2）鍼灸治療科鍼灸科治療における看護師の役割

（1）置鍼の時間管理，（2）鍼治療中の患者の状態観察（ショック症状の危険），（3）抜鍼，（4）患者の衛生教育（食事などの生活指導全般）の 4 項目である．

鍼灸科に勤務する看護師に必要な資格（訓練）としては，通常の看護教育のカリキュラムに加えて，中医に関するカリキュラム（薬物，患者ケア，実習含む）を 9 単位履修しなければならない．対応の看護師は「鍼灸科では学ぶことが多い」と，鍼灸の看護師として誇りを持って従事している様子を垣間見た．また，中医師が「鍼灸科の看護師に期待することは，鍼治療中の患者の安全性の確保」と述べていた．

3）中醫局（漢方薬局）

鍼灸治療科と同じ施設の 1 階に漢方専門薬局がある．収蔵されている種類が多く，またその質も信頼性が高く，台湾における漢方のブランドになっているとのこと．台湾では，漢方薬は保険適用できるものと，そうでないものがある．これは日本と同じであるが，日本以上に漢方薬は広く使用されており，

医療センターの医師からも漢方処方の相談を受ける．日本と比較して，柔軟に漢方薬が使われている様子がうかがえた．

4）薬園

大学敷地の一角に薬草園があり，ヨモギ，杜仲，桔梗など日本でも見慣れている植物から珍しいものまで多種多様の植物が植えられている．薬草には，全てに表示（プレートに標記）がなされており，中国名，学名，効能が記されている．学生は，ここで栽培した薬草を使用して漢方の実習をしている．

5）総括

研修2日目の14：00～17：30までの長い時間にわたって，中國醫藥大學附属関連の施設を見学した．目を見張ったのは，大学附属病院としての機能をはるかに超え，最先端医療を提供する高度医療の実際であり，それに加えて，西洋医学一辺倒ではなく，鍼灸・漢方といった中国医療がうまく統合している様子であった．鍼灸治療科や漢方薬局は十分な施設整備や人材配置がなされており，癌センターの患者をはじめ，内科，整形外科系の多くの患者が治療を受けられる環境が整っていた．病院設立の目的である中国医学と西洋医学の融合という理念が確実に実を結んでいる様子が感じ取れた．

看護職員1,400人を統率する護理部主任（看護部長）との交流では，日本と比較対照しながら台湾の看護の実態を知ることができた．卒業後の教育，勤務事情から退職者が多いこと，特に新卒就職者が3ヵ月以内に離職していることは，日本と類似した課題を抱えていることが理解できた．また，中医鍼灸科に従事する看護師については，所定のカリキュラムに加えて9単位の専門分野（講義・実習）を履修しなければならないとの規定があり，看護の機能は「抜鍼」「鍼治療中の患者管理」「生活指導」とのことであった．日本との違いを実感するとともに，中医において看護が担う役割の重要性が理解できた．

4. 長庚記念醫院桃園分院
Taoyuan Chang Gung Memorial Hospital

1）病院概要

長庚記念醫院は，2002年12月に設立された総合型ケアの病院である．急性期，慢性期，長期ケアに中医学も入っている．中医・西洋医の総合ケアが特徴で，内容は6つの総合センターを持っていることである（健診ドック，睡眠センター，中医養生文化村センター，美家センター，理学療法センター，がんプロジェクト医療センター）．東アジアの大型大学病院の1つであり，東西医療の統合を目指している．特に肝移植，整形外科，大腸癌の研究は世界の中でもハイレベルの研究が行われている．

中医学内科のインフォメーションルームは家族にも公開されており，月2回の教育指導を看護師が担当している．

中医鍼傷科門診での鍼治療は，背部，膝，腰を中心に実施され，骨折後の患者が赤外線を併用した治療を受けている．このフロアーにおける看護師の役割は，灸のアシスタント，鍼を抜く行為，患者の安全性確保である．

中医病房は，4年前から50床で運営されており，脳卒中，腫瘍患者が鍼灸･漢方での治療を受けている．

迎香館は，最上階の8階にあり景色もよく，診療前に体質診断を行い，その結果で入院することができる．マッサージや薬浴またはハーブティーの飲用を患者にすすめている．VIPルームも設けられている．応対者は，楊賢鴻部長，黄慈心主任，黄澤宏医師，李采芬督指，曽素美督指，高淑華護理長，呉女史（日本語ボランティア）であった．

2）小児脳性麻痺病棟（デイケア）

脳性麻痺や喘息の患児がデイケアを受けに来ている．主な治療内容は，鍼灸，ツボ（指圧），音楽療法である．薬浴室があり，母親が付き添って入浴し，看護師がその介助に入る．1回の薬浴時間は約20分，1日約20名の患児が薬浴するという．対象は1歳以上，12歳以下の小児である．浴槽は檜製で小児の身体の大きさに合せて選択できるようになっていた．ケアにあたる看護師は看護師資格以外に9単位の専門プログラムを修了しており，母親に対する指圧指導や生活指導も行われていた．

3）総括

桃園長庚記念病院を代表する特徴的な施設の見学ができた．この病院でも看護師資格以外に9単位の専門プログラムを修了した看護職者が活躍していた．小児脳性麻痺病棟では，実際に薬浴場面を見学することはできなかったが，家族とともに患者を癒していく工夫がされていることが理解できた．小児脳性麻痺は治療法がないと諦めがちだが補完代替療法が用いられていた．中医鍼傷科門診では，筆者らが説明を受けている間に，鍼治療中の患者がプレショックを起こしたが手際よく看護師が対応している場面を身近で見ることができ，このフロアーにおける看護師の役割の重要性についてさらに理解することできた．

5. 國立陽明大學看護学部
National Yang-Ming University School of Nursing

1）大学と看護学部の概要

1996 年から看護学の学士の教育課程，2005 年から看護学の修士課程と博士課程の教育が始まっている．看護師が上位の職階を目指すには，看護学修士レベルをクリアする必要がある．看護学修士のレベル 3 で研究論文を投稿して採用される必要があり，病棟の看護師長になるには看護学修士レベル，看護部長になるには看護学博士レベルを必要とされる．臨床実習する病院と看護学部は情報通信網が張り巡らされており，病院の会議室と大学の講義室間，あるいは大学内の講義室間での同時講義が可能になっている．看護学部の学部長は臨床実習病院の看護部長も兼ねており，病院・大学どちらのパソコンからでも学生のファイル，講義，その他へのアクセスが自由にできる．東洋医学の講義を受ける教室では，鍼灸・指圧の治療台（3 台），漢方の薬品戸棚が備えられていた．学生が学習に専念でき，大学内外の活動に参加でき，学問を探求する姿勢を培えるような環境を創造すること，教員あるいは学生間での相互交流の中で刺激を受けて，学生がその潜在的能力を最大限に伸ばせるように努めている．

入学制度は日本と異なり，全国レベルでの試験を受けて第 1 ～ 100 番までの場合，就職先の希望を登録することができる．学生数は看護学部で 1 学年 100 人，修士課程で 32 人，博士課程で 11 人である．看護師の資格を持った学生への修士課程の開講は，精神看護学，コミュニティヘルス看護学，女性・小児看護学，成人看護学である．

看護学部長兼病院看護部長，施富金教授による大学概要の丁寧な説明があり，看護学部棟の講義室・基礎看護学実習室，図書館，国際交流の事務所が設置されている棟など，学生が使用する主な施設・設備の紹介がなされた．総合大学の中で看護学生は，グローバルな刺激を享受していることがうかがえた（図 4）．

図 4

2）学習環境

教育の質を高め，教育資源を共有し，研究力の統合をはかることを目的にして他の国立 3 大学との提携（UST: the University System of Taiwan 台湾聯合大学系統）を結んでいる．これらの 4 つの大学に在籍する学生は，各大学の図書館，研究設備を使用することができると同時に，他の学部に移籍することや他学部での単位の取得が可能になっている．看護学部でも学生が情報科学や医療工学関連の科目を履修することを勧めているとのことである．履修科目以外の教育一般としてもボランティア活動，スポーツ活動，音楽のコンサート等へ 4 大学の学生は一緒に参加している．緯度の低い国だけあって，看護学部棟の教室の窓は，遮光（UV カット）98％だということで，教室の中からは感じなかったが窓を開けると強い日差しであった．大学の敷地は山の麓で斜面を利用した設計になっていて，図書館や他の棟とは階段（木制）や道路で接続され，台北市街地を見下ろせる立地条件の環境にある．

海外の姉妹校も多くアメリカ合衆国 10 大学，英国 4 大学，中国 9 大学，日本 3 大学（長崎大学・山口大学・東京工業大学），その他にアフリカ・オセアニア・インド・ヨーロッパ等の国々の大学とも提携している．国際事務所が置かれていて，外国からの訪問者や姉妹校との研究協力，交換留学生に関するプログラム等に関する仕事を行い，国際的なネットワークが構築されている．学生の支援体制として国際事務所の一角には女性の警察官が常駐していて，留学生など多様な学生の安全を確実に支援している様子であった．

IV. 考察

1. 中國醫藥大學護理學系と本学看護学部の学術交流

中國醫藥大學護理學系の教育理念には【The 3H spirit】Harmony・Humanism・Holism が掲げられカリキュラム全体に浸透していた．訪問者として，短い交流時間の中で様々な工夫や心温まる対応でも感じることができた．学生数に対する教員数は日本と大差がなかったが非常勤を多数採用して，柔軟にきめ細かく対応されていたのが興味深い．本看護学部に参考になる点は，1）実習室に東洋医学関係の用具，経絡とツボのモデル人形が展示されており，看護学生も重要なツボ 10 か所は必ず覚えること，2）鍼灸

看護の授業を卒業のための必須単位以外で受けていること，3）アロマセラピスト資格を持つ教員，東洋医学の博士号を持つ教員がいること，4）すべての教員が東洋医学のトレーニングを受けていること，5）指圧は看護師でも教えることができること，6）東洋医学的看護については，技術トレーニングに力を入れていたこと等であった．

今回の学術交流では，本学部からは，日本の看護教育について，また本学の看護教育の方針とカリキュラムについて紹介した．学術交流からの学びは多かった．各々大学のおかれている文化背景や国の経済状況は違うが，看護教育に共通する理念を根底に共有できる事，東洋医学と西洋医学の融合を考えるにあたり，補完代替療法の根源を探ることをさらに教育・研究していくことを掲げていくことの確かな示唆を得た．

具体的な直近の計画では，中國醫藥大學護理學系教員が，日本で開催される学会に参加する場合，本学に招聘し学術交流を継続しようという話し合いができた．このように，今回2つの大学とのつながりができたので，さらに共通の目標を見出していきたい．まだ手を付けていない，学生間の国際交流の機会を創設し進展させることが次の課題である．

2. 施設見学と交流から

中國醫藥大學中醫藥展示館には，東洋医学に関する様々な物品が歴史背景の説明とともに展示されており，貴重な品々であった．時間経過に沿った大学グッズの展示等もあり，あらゆる場で様々な事や物をとおして計画的にPRしている様子を大いに学ぶべきである．

中國醫藥大學附属病院は，中国医学と西洋医学の融合を目的にした高度医療センターとして発展している大規模の病院で，センターのミッションは，教育・研究・サービスと明確であった．55のユニットからなる看護部門は，1,400名の看護職員を抱え看護部長の人事管理の手腕が試され，大規模ゆえの悩みに共感できるものもあった．基礎教育が，卒後の就業に果たす使命は，台湾，日本ともに共通する課題であり，打開策についてはもっとお互いに原因や要因を追求し分析する必要があると思われる．外から客観的にみることで，看護管理や長期的な教育に関する掘り下げが必要である．

また，興味深かかったのは，鍼灸科に勤務する看護師が，中医に関する教育9単位（薬物，患者ケア，実習）の履修が必要で，鍼灸の専門看護師としての位置が明確にされていたところである．鍼灸師の置かれている立場が，日本では鍼灸師のみのであり，台湾は中医医師が鍼灸師の資格もあるので，鍼灸治療にきちんと向き合えるのである．さらに，鍼の専門看護師の役割について知り，日本で進展を検討することが必要であると考える．病院のロビーに隣接した薬園には，たくさんの薬草が植えられ，教育面のみならず，患者にとって緑豊かな癒しの環境にもなるよう計画されており，教育と臨床の場を持つ本学においても具体的な教育環境の整備が検討に値すると示唆された．

3. 國立陽明大學看護学部との交流

國立陽明大學看護学部は，総合大学の学部の数も多く，国際交流の事務所が設置され，海外の姉妹校契約もすでにされていて，多く国際的なネットワークが構築されていた．さらに臨床看護師の教育環境については，大学と病院で同時に講義や会議が可能な情報通信網が充実している．それには，情報機器の完備が重要である．

看護職の最終学歴は，看護部長が博士号を看護師長が修士号を必要とされ，看護管理者や臨床看護師に求められるレベルの高さを感じることができた．大学の看護学部長が附属病院の看護部長を併任していることから，教育と臨床の連携を密にして展開されていた．附属病院と大学との連携がシームレスな教育と実践につながるカギであると考える．本邦においても，この方式で成功している大学と臨床は各所にみられる．本学も今後検討する課題であることが示唆された．

4. 研修の成果

今回の「平成22年度台湾研修」をまとめると，以下のとおりである．1）台湾と本学教員の学術交流，特に東洋医学に関する教育・研究に関して両大学看護学部看護教員の間での意見交換ができた．2）教員の研究交換，研究のための長期滞在の可能性がみいだされた．3）本学の国際交流事業への講師派遣協力について具体的に検討できた．4）外来で，鍼灸治療に携わる看護師は，看護師資格のほかに鍼灸の専門科目を単位取得することで鍼灸施療の場面に携わることができる制度について知ることができた．

以上の結果から今後の課題として，教員がいつでも海外の大学との交流や研修に出かけられる体制づくり，特に若い教員や学生が東洋医学や補完代替医療に触れる海外研修の道筋を，具体的に構築することの重要性が示唆された．また，看護管理部門の組織力の未成熟さの検討の必要性，臨床と大学が手を組み，教育･研究の目標を同じくして協力体制を作っていくことがあげられる．

V.　結語

今回，台湾の大学看護学部との学術交流，並びに今後の学生交流について検討するための情報収集を行った．また，東洋医学を用いた施療の実際を見学したところ，特に台湾の看護事情のいくつかの知見が得られて大変有意義な研修であった．西洋医学だけではなく，東洋医学をどのように看護に組み入れていくかの課題も持って行ったところ，鍼灸の治療場面では，看護師が看護に加えて鍼看護の単位取得をしてその役割を果たしており興味深かった．文化や社会背景が違う中で，すぐ取り入れられるものではなく，さらに知見を深めること，そのためには他の大学との交流を拡大するなど次の計画を立てていきたい．学生による国際交流は，本邦の国家試験受験資格取得のための規則の壁もあり，どのような形で実現するかを次の課題としたい．

最後に，コーディネーターとして，中国語の通訳として，研修の初めから研修中のすべてを通して，ご助言ご協力を賜りました中山登稔教授と中山肯英先生に深謝いたします．

A Report on the Taiwan Study Tour

Kouko Yamada, Koyama Atsuyo, Keiko Yano, Toyoe Taguchi, Suemi Nagashima, Takae Kiyono, Masako Aota, Yasuko Matsukawa, Mayuko Nakamura

Department of Nursing, School of Nursing Science, Meiji University of Integrative Medicine

ABSTRACT

Nine faculty staff members from the School of Nursing Science at Meiji University of Integrative Medicine visited the School of Nursing at China Medical University from December 22nd to 23rd 2010 in Taichung, Taiwan. Information was exchanged on curriculums, especially Traditional Chinese Medical Nursing, and the possibility of a sharing of research between faculty members of the two universities was discussed. Besides the School of Nursing at China Medical University, we had a chance to visit Lifu Museum of Chinese Medicine at China Medical University, China Medical University Hospital, Taoyuan Chang Gung Memorial Hospital in Taoyuan County, and to hear about the nursing system from the head of the nursing units.

On the 24th, we visited National Yang-Ming University School of Nursing (NYMUSON) where we had a lecture outlining the main points of the curriculums which NYMUSON provides for its students. We also had a guided tour of the university campus by professor Fu-Jin Shih and exchanged views with her on the curriculums for their bachelor's course.

The fruits of the study tour are: 1) exchanged scholastic information among above-mentioned faculty staff, especially information on the research and education system related to Oriental Medicine; 2) discussed a faculty exchange between the universities to share long-term research; 3) considered the dispatch of a guest lecturer to our affiliated International Academic Exchange Center enterprise; 4) received information about nurses who take part in providing acupuncture medical care for outpatients. (Nurses who have taken the required 9 credits in specialized acupuncture subjects in addition to regular nursing subjects can work in the Acupuncture Outpatient's Section). From this point on, we need a system which permits faculty staff to share their research and to visit universities of foreign countries for the purpose of deepening their nursing knowledge and experience. Especially for young staff members and students, we need to construct a concrete path which gives them a chance to study and experience Oriental Medicine and Complementary and Alternative Medicine in foreign countries.